

令和3年度京都府公立大学法人若手研究者・地域未来づくり支援事業研究成果報告書

	(所属)	(職名・学年)	(氏名)
研究者 (研究代表者)	京都府立医科大学 救急医療学教室	助教	武部 弘太郎
研究の名称	京都府北部地域における高齢者救急コホートの構築と検討		
研究の キーワード	高齢者救急、高齢化、2040年問題、京都府北部地域、データベース構築		
研究の概要	本研究は、京都府北部地域における病院前（救急隊）の救急活動記録と病院内の診療情報から高齢者救急の実態把握と今後の改善点の礎となり得るデータベースを構築し、疾病別プロトコルの作成により具体的な改善策に向けた医療情報を提供するものである。		
研究の背景	本邦では、高齢化率の上昇を背景に高齢者の救急受診者数及び救急車搬送件数、救急搬送人員における高齢者の割合はどれも増加の一途を辿っているが、高齢者救急の実態を解明するシステムの開発やエビデンスの確立は不十分である。高齢化率が約35%（全国平均の2040年水準）の京都府北部の救急診療体制は、進行する高齢化という観点から日本最先端であり、「2040年問題」や高齢者救急に関する課題への解決の糸口を探すのに適していると考えられる。		
研究手法	救急隊の救急活動記録および病院内の診療情報から得られる医療情報をデータベース化して行われる地域網羅的前向き後ろ向きコホート研究である。		
研究の成果	医療情報のデータベース化のうち、病院内の診療情報と紐付けしながら医療情報を蓄積できる患者情報記録・管理システムを京都府立医科大学附属北部医療センターの救急外来に導入した。 本システムはすでに稼働しており、今後のデータベース構築に向けて、救急受診患者の医療情報が蓄積され始めている。2022年2月のシステム導入以後、2022年3月の救急外来受診者数は721名で、10歳階級別では70～79歳の受診者数が136名（18.9%）と最も多かった。70歳以上として区切ると353名（49.0%）となり、救急受診患者の約半数が70歳以上の高齢者であることが分かった。		
今後の期待	本データベースを基に京都府北部地域の救急診療の実情を把握することができ、さらに疾患別などの様々な臨床研究に利用可能となることが期待できる。また、現状の京都府北部地域を、今後さらに高齢化率が高まる都市部の救急診療の将来像として提示し、然るべき備えや改善策などの提案に繋げることができる。		
研究発表	未定		